

ユニー・ファミリーマートホールディングス 株式会社



2019年2月期 第3四半期決算説明会

2019年1月10日

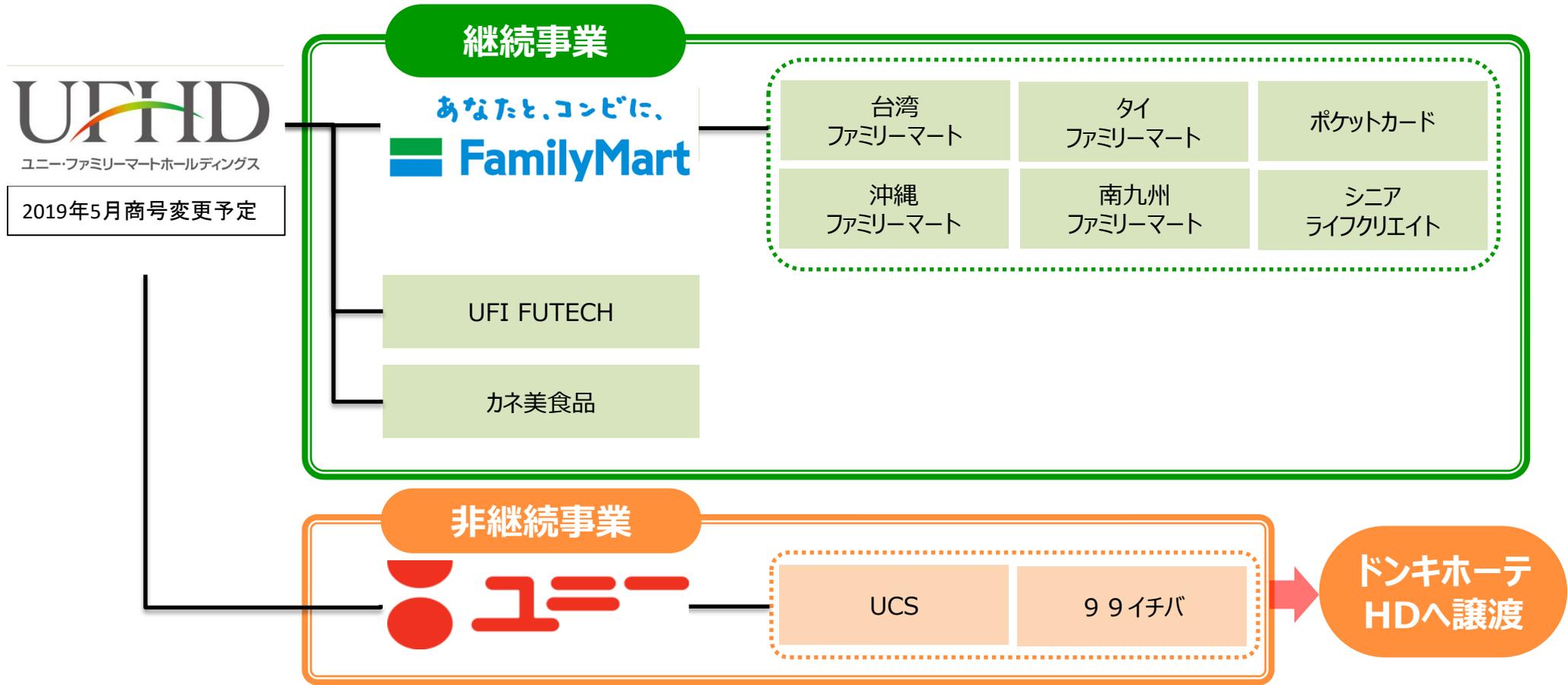
—注意事項—

本資料の記述には、当社の将来の業績等に関する見通しが含まれていますが、これらは現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいています。実際の業績等は、経済の動向、当社を取り巻く事業環境等の様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

2018年度第3四半期決算概要 通期見通し

- ユニー(株)の譲渡決定に伴い、当第3四半期より、ユニー及びその子会社の事業を「非継続事業」に分類しております。

<主要企業の分類>



<企業会計上の数値>

	主な変更点	前年実績の遡及修正
P/L	営業収益、事業利益、税引前利益は「 非継続事業 」を除く「 継続事業 」のみの数値	あり
B/S	「非継続事業」に係る資産/負債を、「売却目的で保有する資産/負債」として、ワンラインで表記	なし
C/F	「非継続事業」からの営業/投資/財務活動キャッシュフローをそれぞれワンラインで表記	あり

● P/L

継続事業

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2017年度 3Q累計	2018年度 3Q累計	
	実績	実績	前年同期差
営業収益	4,791	4,708	▲ 82
事業利益	366	482	115
税引前利益	235	373	137
継続事業からの当期利益	313	477	164
非継続事業からの当期利益	207	189	▲ 17
当期(四半期)利益	521	667	146
親会社所有者帰属利益	484	564	80

※会計上のP/L、B/S、C/F ⇒ 詳細は決算参考資料P.3-P.5参照

2018年度第3四半期決算概要 (IFRS)

<参考：企業会計上の数値とは異なります>

※「GMS事業（非継続事業）」含む前年比較 ⇒ 詳細は決算参考資料P.1-P.2参照

CVS事業にカネ美食品の実績含む (単位：億円、億円未満切り捨て)	2017年度 3Q累計	2018年度 3Q累計		
	実績	実績	前年同期差	主な増減要因
営業収益	9,508	9,490	▲ 18	(99.8%)
CVS事業	4,599	4,709	110	カネ美食品の子会社化
GMS事業	4,938	4,826	▲ 111	店舗数の減少
事業利益	575	718	142	(124.8%)
CVS事業	378	496	118	ブランド転換店の利益増、不採算店舗閉鎖に伴うコスト削減
GMS事業	198	220	21	既存店及びダブルネーム店の好調
親会社所有者帰属利益	484	564	80	(116.5%)
CVS事業	121	207	85	事業利益の増加等
HD及び連結調整	171	258	86	繰延税金資産の計上(前年差影響+68)
GMS事業	191	98	▲ 92	ユニー株式40%譲渡による前年差影響(▲61)

事業利益、親会社所有者帰属利益ともに前年同期実績を大幅超過

- CVS事業 : ブランド転換店の利益増、不採算店舗の閉鎖に伴うコスト削減等が寄与
- GMS事業 : 既存店売上の前年超えに加え、ダブルネーム店も好調に推移
- HD及び連結調整 : 繰延税金資産の計上(225億円)、ユニー香港の売却益の計上(27億円)等

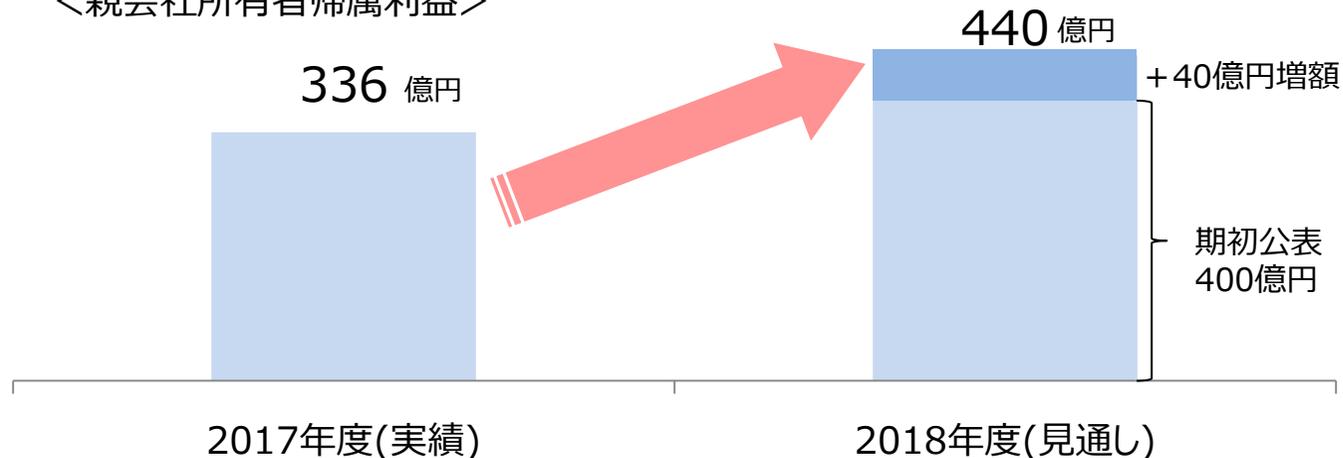
●2019年1月4日公表

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2017年度	2018年度	
	通期 実績	通期 計画	前期差
営業収益	6,370	-	-
事業利益	416	-	-
親会社所有者帰属利益	336	440	103

精査中

※2017年度の営業収益・事業利益は非継続事業を除く実績

＜親会社所有者帰属利益＞



**親会社所有者帰属利益は期初公表より40億円上方修正し、通期440億円の見通し
第4四半期に戦略什器等の前倒し導入や懸念払拭に向けた損失処理を実施予定**

店舗基盤の強化

● ブランド統合

- 11月末をもって、ファミリーマートブランドへの一本化が完了



転換累計
5,003店

あなたと、コンビに、

FamilyMart

(転換後日商) **506**千円
(転換前対比) **110**%

- 転換2年目店 (2,958店) も好調に推移⇒日商伸び率 **102%**
- 統合シナジー **18年度見込み 60億円→19年度見込み 90億円** (システム統合効果含む)
- 統合コスト **18年度見込み 90億円→19年度見込み 65億円**
(転換支援金・償却費等) (償却費のみ)

● 高質店の出店

- 新店日商は引き続き高水準で進捗

第3四半期 累計	新規	B&S	計
出店数	79店	256店	335店
新店日商 (前年同期差)	546千円 (+39千円)		



商品力の強化

● 中食構造改革による売上向上

- お母さん食堂が中食売上を牽引
⇒ 惣菜既存比 **122%**
- 食物繊維豊富なスーパー大麦を使用したおむすびも好調
⇒ おむすび既存比 **102%**

おむすびの好調を受け、スーパー大麦入りの
弁当・寿司を続々発売

累計**4,000万食**を超えるヒット商品へ



スーパー大麦入り
わさびいなり寿司

● コーヒー刷新

- 新型コーヒーマシンの前倒し導入（来期全店完了）
【下期】当初想定 **5,400台**⇒**6,400台**へ
- 導入店におけるコーヒー売上**10%**アップ
- 女性客を中心にカフェラテが特に伸長



店舗オペレーションの強化

● 業務効率化

- 加盟店オペレーション負荷軽減に向けた既存店への投資

店舗での検品レス



7Lフライヤー



新型引き出し棚



現金カウンター



セルフレジ



⇒これら取り組みにより、店舗作業時間約5時間分の削減効果

● 加盟店支援

- 個店収益力強化、災害に強い店舗づくり整備への追加施策

- 店舗発注端末 (SAT) の入替前倒し
 - ・ 発注精度の向上、発注時間の短縮化
- 店舗BCPへの対応強化
 - ・ 災害時における電源の確保
- LED照明の導入完了
 - ・ 店舗における光熱費削減の実現



店舗発注端末 (SAT)

業務提携の継続

- 両社の強みやノウハウを共有し、業態を超えて実現
 - ①商品、サービスの共同開発
 - ②データマーケティングや金融サービス分野での協業
 - ③海外事業の共同展開 等
- 業態転換店舗「MEGAドン・キホーテUNY」についても、引き続き好調に推移



ドンキホーテ HLDGS

ユニ株式の譲渡完了

- 当社が保有するユニ株式60%をドンキホーテHDに譲渡完了
- 2019年1月より連結除外

主な財務インパクト

P/L	➤ 18年度：ユニ株式譲渡に伴う繰延税金資産等の計上（第3四半期計上）
B/S	➤ 18年12月末をもってGMS事業分が除外（第4四半期除外予定） （参考：11月末時点） <ul style="list-style-type: none">総資産 約4,900億円総負債 約4,300億円（うち有利子負債約2,300億円）
C/F	➤ 18年度：約2,000億円のキャッシュイン（第4四半期計上予定） ユニ譲渡代金 282億円のほか、GMS事業の貸付金回収、配当金収入等で約1,700億円

(単位：億円、億円未満切り捨て)	CVS事業にカネ美食品の実績含む	2018年度 第3四半期累計			
		CVS事業計	前年同期差	FM (単体)	前年同期差
営業収益		4,709	110	3,323	▲ 288
事業利益		496	118	413	101
親会社所有者帰属利益		207	85	207	※ 89

※ 前期子会社からの配当金収入による影響（43億円）を除く

		2018年度 第3四半期累計	
		実績	前年同期差
FM (単体) 主要 営業数値	全店日商 (千円)	529	▲ 3
	既存前年比 (ブランド転換店含む)	101.5%	—
	差益率 (カード・チケット除く)	31.0%	0.1%
	新規出店数	79	▲ 126
	B&S出店数	256	71
	単純閉店数	265	▲ 30

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2018年度 第3四半期累計			
	GMS事業計	前年同期差	ユニー（単体）	前年同期差
営業収益	4,826	▲ 111	4,358	▲ 131
事業利益	220	21	180	9
親会社所有者帰属利益/四半期利益	98	※ ▲ 92	132	▲ 42

※ ユニー株式40%譲渡による前年差影響（▲61億円）

		2018年度 第3四半期累計	
		実績	前年同期差
ユニー （単体） 主要 営業数値	既存前年比	101.0%	—
	衣料品	100.0%	—
	住関連	101.1%	—
	食品	101.2%	—
	荒利率	23.5%	0.0%
	期末店舗数	188	▲ 10